【日本の大学】第９９回―愛知県立大学：「知の拠点」として地域に貢献

愛知県立大学は、第２次大戦後まもなく設立された愛知県立女子専門学校（国文科、英文科）が起源である。その後、専門学校から女子短期大学に改組される一方、1957 年には４年制の愛知県立女子大学が設置され、この両大学がそれぞれ、中部地方の女子高等教育を担ってきた。こうした流れを受け継いで、1966 年に男女共学の愛知県立大学として新たに出発した。

大学が理念として掲げているのは（１）知の探究に果敢に挑戦する研究者と知の獲得に情熱を燃やす学生が、相互に啓発し学びあう「知の拠点」を目指す（２）高まる高等教育の需要に応える公立大学として、良質の研究とこれに裏付けられた良質の教育を進めるとともに、その成果をもって地域社会・国際社会に貢献する（３）自然と人間の共生、科学技術と人間の共生、人間社会における様々な人々や文化の共生を含む「成熟した共生社会」の実現を見据え、これに資する研究と教育、地域連携を進める――ことを挙げている。

以下、ホームページなどから愛知県立大学の沿革や現況をみていこう。

長久手キャンパス

女子大学から共学に移行

愛知県立女子専門学校は、日本国憲法が施行された 1947 年に名古屋市東区にあった県立第一高等女学校の一角に開校した。3 年後 1950 年には女子短期大学（国文科、英文科）となり、翌 51 年には校舎を名古屋市瑞穂区高田町に移転した。児童福祉科を増設し、国文科、英文科に第二部も開設している。1953 年には名称を愛知県立女子短期大学と改めた。短期大学と並行して 1957 年には 4 年制の愛知県立女子大学が開学した（女子短期大学は 2001 年に廃止）。

男女共学の愛知県立大学となったのは 1966 年であり、その際県立女子大学は学生募集を停止している。県立大学設立時は、文学部（国文学科、英文学科、児童教育学科、社会福祉学科）と外国語学部（英米学科、フランス学科）、外国語学部第二部（英米学科、フランス学科）という 3 学部からなる男女共学の大学として誕生した。2 年後の 1968 年には外国語学部にスペイン学科が加わり、3 学部 9 学科となった。

これとは別して 1968 年にはのちに看護学部となる愛知県立看護短期大学が設立されている。この際、修業年限 3 年の第一看護学科と修業年限 2 年の第二看護学科を置いた。キャンパスは名古屋市守山区だった。1995 年には愛知県立看護大学が開学している。

愛知県立大学は、1998 年にキャンパスを名古屋市内から東隣りの愛知県長久手市の東部丘陵地帯に移転し、施設・設備を一新した。同年には、初めての理系学部として情報科学部（情報システム学科、地域情報科学科）を設置するとともに、文学部や外国語学部の学科の充実も図っている。

長久手キャンパス図書館（J 棟）

看護大学と統合、看護学部誕生

県立大学と県立看護大学が統合されたのは 2009 年のことである。その際、学部の大再編が実施されている。看護大学が看護学部（看護学科）となったほか、文学部の国文学科と日本文化学科を引き継ぐ形で日本文化学部を設置、文学部の児童教育、社会福祉学科を受け継ぐ形で、教育福祉学部を新設。外国語学部と情報科学部を合わせて 5 学部体制となった。

現在は、本部のある長久手キャンパスに外国語、日本文化、教育福祉、情報科学の 4 学部と大学院の国際文化、人間発達学、情報科学の 3 研究科があり、名古屋市守山区にある守山キャンパスには看護学部と大学院看護学研究科があって、計 5 学部と 4 大学院を合わせて約 3500 人の学生が学んでいる。

守山キャンパス看護学部

少人数学級と専門教育を充実

設立当初からある外国語学部は、高度な外国語運用能力と文化・社会の多様性に対する深い理解を身につけ、国際社会および地域社会の課題解決に貢献するグローバル人材の育成を教育目標に掲げている。英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語（ドイツ語と中国語は 1998 年に増設）、ポルトガル語（2023 年度から新設）の 6 言語を専攻外国語としており、世界の主要言語について、少人数クラスで高度な外国語運用能力を有する人材を育成している。専攻言語にプラスした外国語学習の面では、充実した教養外国語教育を提供している。学科は、英米学科、ヨーロッパ学科（フランス語圏専攻、スペイン語・ポルトガル語圏専攻、ドイツ語圏専攻）と、中国学科、国際関係学科を置いている。

外国語運用能力の涵養と連動した専門教育の充実を行っているのも大きな特色である。学生は、専攻外国語を学ぶだけでなく、多様な講義・演習科目を通じて専攻する言語圏の文学・文化、地域・社会への理解を深める。2023 年度からは、学生が学問の基礎や方法をじっくり学び、自分の問題意識や関心に照らして専門性を高められるよう、全学科・専攻に共通する学部共通専門科目を開設した。教養教育を補完しつつ、言語研究、歴史・文化論、多言語・多文化社会、国際社会、市民社会・地域社会、アジア・新興国の六つの領域を深める学部共通研究各論は、各言語・言語圏の学びにとって理論的な支えになるとしている。

多くの学生が留学を経験しており、3 人に 1 人は半年または 1 年の長期留学に挑戦し、夏休みなどを利用した短期留学を合わせれば、大部分の学生が海外生活を経験する。

さらに、2023 年度入学者から、全学科・専攻学生が選択できる 3・4 年次の専門コースとして、多言語社会課程を設置した。課程履修学生は、学部共通専門科目で学問的な基礎を固めつつ、ワークショップ型の「多言語社会共通演習」や国内外のプログラムからなる「多言語社会フィールド実習」などの学びを通じて、応用力・実践力の獲得を目指していく。

2009 年にスタートした日本文化学部は、人文社会を対象とする総合的な学びの場であると位置づけ、言語・文学や歴史、社会を通じて自らの文化への深い理解と幅広い知識を培い、伝統の発見者になるとともに、そこから見える多様な異文化への理解を持ち、視野を世界に開くことを目指す、としている。国語国文学科と歴史文化学科の 2 学科で構成されている。

教育福祉学部は、教育発達学科と社会福祉学科の 2 学科からなっている。学部共通の科目とともに、それぞれの学科は、保育や教育あるいは社会福祉に関する知的探求心を育み、そうした分野の専門職に必要な知識と技術を身につけるための体系的なカリキュラムを用意している。少人数制により一人ひとりの進路に沿って行き届いた専門的な指導を受けられる。

日本文化学部・教育福祉学部棟（G 棟）

看護学部は看護学を、人間の健康を支える学問であり、専門的な知識と技術を用いながらエビデンスに基づく実践を行っている。適切にコミュニケーションが取れる力と、人々の多様性を受け入れられる寛容さが求められる。急速に進む高齢化によって、看護ニーズは複雑化、多様化しており、こうしたニーズに対応できる知識や技術の獲得を図るため、4 年間かけて現場で通用する高い実力のある看護師を養成している。社会の要請に対応して、助産師に続いて保健師を大学院化してより高度な実践者の育成を行っている。

情報科学部では、人工知能（AI）、IoT(Internet of Things)、ロボット、データサイエンスなどを基盤とした「第 4 次産業革命」や「超スマート社会」を見据えた教育研究を展開する。学科共通の基礎として、1、2 年次には情報科学の各種理論やハードウェア、ソフトウェア、ネットワークに関する知識と技能を学ぶ。3 年次からは四つのコース（情報システム、シミュレーション科学、知能メディア、ロボティクス）に分かれ、それぞれの専門分野を深めていく。高度情報社会で活躍できる実践力を身につけるとともに、情報科学で人や社会を幸せな未来につなげられる人材の育成を目指している。

3 年ロボティクスコースの学生たちの実験様子

大学では、国際戦略方針に基づいて国際化、国際交流を促進している。海外留学は活発で例年 300 人以上の学生（全体の約 10%）が在籍中に北南米、欧州、アジア、オセアニアなど世界各国に数週間から 1 年間の留学を行っている。留学の種類としては交換留学、派遣留

学、認定留学（外国の大学で取得して単位を認定）、ショートプログラム（夏期、冬期）、学位取得留学などがある。海外協定大学・機関としては約 60 の大学・機関との間で学術交流協定を締結しており、学生の交流、教職員の交流など、国際交流推進のために国境を越えた様々な教育研究活動を行っている。

外国人の留学生への支援には留学支援室があたっており、日本での留学生活に関する相談のほかチューター/メイト学生による生活・文化への適応支援、在留資格の取得や更新の手続きなどの支援を行っている。留学生を対象としたバスツアーや日本文化体験等の各種イベントも実施している。

学生数は 2023 年 5 月現在、学部が 3224 人、大学院が 232 人である。

現在の学長は久冨木原玲氏である。早稲田大学法学部卒、東京大学大学院人文科学研究科国文学専攻博士課程（単位取得満期退学）のあと、鹿児島女子短期大学専任講師となり、助教授。共立女子短期大学助教授、教授をへて 2006 年愛知県立大学教授となり、2016 年名誉教授。2018 年から愛知県立大学学長。国文学者。専門は日本古代文学（源氏物語）、日本韻文史である。

日文：滝川　進

写真：愛知県立大学 HP